令和7年度

藍住東小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 基礎的・基本的な知識・技能の習得を図り、様々な活動を通して思考力・判断力・表現力を伸ばす指導の工夫
- 言語活動を充実させた対話的な授業の実践

校長

栗田 敏宏

学力向上推進員

矢野 彩

【各校の取組状況の把握について】

計画的な授業研究会や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組み状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字の読み書きや計算の反復練習には真面目に取り組む、一定の定着が見られる。 ●学力の個人差がある。 ●級友の考えを最後まで聞く姿勢が身につけていない児童がいる。	・当該学年の基礎学力が定着している。 ・身につけた知識や技能を、生活の中で活用している。 ・注意深く話を聞き内容を理解することができる。	・めあてや学習ページの明示等、ユニバーサルデザインを活用し、わかりやすい授業を実施する。 ・「ドリルタイム(15分)」を活用し、既習事項の積み重ねを行う。 ・聞く態度を指導し、安心して話せる学級の雰囲気を作る。 ・授業の振り返りを工夫し、定着に繋げる。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基本の型があれば、自分の考えを話したり、発表したりすることができる。 ●伝えたい思いはあるが、自分の思いや考えを文章で伝えることに苦手意識を持つ児童が多い。	・自分の考えや思いを適切な言葉、方法で積極的に伝えている。 ・自分の考えの根拠を示し、相手に伝えるように表現できる。	・付箋やICT端末の活用・話型・文型の提示を行い、表現することが苦手な児童への継続的な支援を行う。 ・教師が児童の意見を繋げたり、問い返したりして表現の幅を広げていく。 ・思考ツールを活用し、考えをまとめさせる。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習に前向きに真面目に取り組もうとする児童が多い。 ○家庭学習の習慣が身につけている児童が多い。 ●学習規律が十分でない児童がいる。 ●学習に対する姿勢が受動的な児童がいる。 ●難しい課題や新しい問題に対して、早々に諦めてしまう児童がいる。	・学習規律が確実に定着している。 ・難しいと感じる課題でも、前向きに粘り強く取り組むことができる。 ・自ら学習課題を設定し、課題解決できるよう計画を立て、実践することができる。	・学習規律の掲示を低中高ごとに作成し、児童が確認できるようにしておく。 ・学習の流れを提示し、見通しをもって、落ち着いて学習できるようにする。 ・学習場面によって、効果的な学習形態を図り、実践する。 ・日常的にPBSを行い、達成感を多く味わわせるようにする。			